

The revision of Indian *Chassalia* Jacq. is just completed by one of the authors (D.B.D) jointly with B. Krishna of the Department. The specimen certainly represents *Chassalia* but does not come under any of the species known deserving a new combination as follows:

***Chassalia staintonii* (Hara) Deb et Mondal, comb. nov.**

Ophiorrhiza staintonii Hara in Journ. Jap. Bot. 52(12) : 358 (1977).

Type: E. Nepal, Soktim Tea Estate, 450 m, May 21, 1971, J. D. A. Stainton 6875 BM, TI. Paratype: Sikkim, Legship, 600 m, Apr. 29, 1966, J. D. A. Stainton 5380 BM!, TI.

Flowering time: April—May.

Distribution: E. Nepal to Sikkim, 450–600 m in altitude.

Acknowledgement: The authors are grateful to the Keeper, British Museum (Natural History), London, for loan of specimens.

東部ヒマラヤから記載された *Ophiorrhiza staintonii* Hara はその所属に疑問があるとして発表された。今回精査したところ、子房は 2 室で各室に 1 基生胚珠があることが分かったので、この種を *Chassalia* 属に移した。

(Indian Botanic Garden, Howrah, India)

□ M. N. Clayton & R. J. King (ed.): **Marine botany: An Australasian Perspective** viii+468 pp. 1981. Longman Cheshire, Melbourne. ¥11, 860. 南半球の植物を対象とした最初の海産植物の教科書である。17名の執筆者はいずれもオーストラリアまたはニュージーランドの研究者で、内容は、研究歴史に続き微生物、紅藻、褐藻、植物プランクトン、緑藻、種子植物の分類と形態の記述を主とする 8 章、次いで海藻の分布、プランクトンの生態、マングローブと沼沢林の生態、サンゴ礁の生態を扱う 5 章および石灰化・珪酸化、光合成、一次生産など生理を扱う 4 章の計 17 章から成る。この本はオーストラリアやニュージーランドの学生のために作られたとのことで、基本的なことがらや最新の知識を学びながら当該の地の海の植物を理解させそして興味を持たせようとする執筆の方針で、多くの、それも少し大きめの絵や写真を挿入するなど、意図実現のための苦心の跡が伺われる。巻末には約 1500 に及ぶ引用文献があげられている。個々の文献に当ることなく、オーストラリア・ニュージーランドの海の植物相や生態の概要を知る書物の出現は、南半球の人ならずとも実に有難い。なおこの本は第 13 回国際植物学会議に出版を間に合わせたいとのことでもあった由で、このためやや急いだらしく、図の作成、割り付けなどに今一歩といったところがある。この点は惜しまれる。

(千原光雄)